

カ所を数えた。各研修病院としても対応は、自院で行うところ、日常診療で連携する施設を利用したり、保健所実習、老人保健施設、僻地の診療所を活用する等様々である。制度開始当初は試行錯誤しながら進んでいくものと思われる。

北海道医師会では、一般中小病院および診療所で臨床研修に対して、どれ程関心を持たれているのか、研修生を引き受けてもよいと考える医療機関がどれ程あるのか、昨年11月意向調査を行った。道医会員の所属する医療機関および老人保健施設のうち、既に臨床研修指定病院、協力病院、協力施設の登録されている施設、事業協会・厚生連・勤医協等幾つかの集合がなされている施設、および道立関係施設を除く3,122施設を対象に調査を施行した。回答は1,011施設（回収率32.4%）から得られた。

結果は、協力したい 128件（12.7%）、説明を聞きたい 110件（10.9%）、その他 11件（1.1%）、協力できない 762件（75.4%）であった。協力したいという医療機関が予想以上に多いことを知った。地域保健・医療の研修制度を、身のあるものに育てていくためには、会員の先生方の奉仕的協力が必要である。

3. 医師会の関与と今後の取り組み

北海道医師会は研修制度開始に当たって、制度の順調な遂行を側面から援助すべく早期に組み

を開始した。平成14年12月には道内3医育大学の研修担当者との連絡会議を開催し、研修制度開始に対しての進捗状況、問題点の話し合い等大学間の情報交換を行った。その後、行政（道および北海道厚生局）、3医育大学、研修病院、病院協会等と連絡協議会設立、道主催の研修病院合同プレゼンテーション（東京および札幌開催）に参加協力体制を取ってきた。

また道医独自の協力体制として、臨床研修および臨床実習の指導医のための教育ワークショップを開催し、指導医養成の手伝いをしている。これはこれまでに平成16年3月、平成16年7月と2回実施した。これまでは研修病院の指導医のために行ってきたが、今後は研修協力施設としていわゆる研修病院や研修協力病院以外の中・小病院や診療所および老健施設の先生方にもこの教育ワークショップに参加して貰うようにご案内したいと考えている。

研修医の方々の地域保健・医療の研修の在り方や効果的運用のために、感想、要望、意見を把握し、医師会としての研修制度に対する対応をはかっていくことが必要と考えている。

全国各地の医師会はそれぞれに暗中模索しながら、手探りで道を切り開くべく努力している。

当医師会としても会員諸先生の協力を得て、将来につながる制度の発展に寄与していきたい。

報 告

スマトラ沖大地震・インド洋津波災害救援のための義援金について

スマトラ沖大地震・インド洋津波災害救援のための義援金について、先般、北海道医報等にて協力要請をいたしましたところ、会員各位および各郡市・医育機関医師会より総額4,686,737円の義援金が集まりました。

本義援金は、当会の30万円を加え、日本医師会宛に送金し日本放送協会を通じて日本赤十字社へ寄付されましたので、ご報告申し上げます。

皆様のご協力で御礼申し上げます。